



図45 塚の位置 2万5000分1地形図「矢代田」



図46 鉦鼓 上面の直径9.8センチメートル

九つ塚ここのつづか 秋葉区矢代田

九つ塚は、新津丘陵の西麓に舌状に張り出した尾根の先端部近くにある。尾根の先端部はJR信越線、東側は県道四一号线によって削られ、独立した丘のようになっていて、JR矢代田駅に近く、周辺は宅地・竹林になっている。

昭和六十一（一九八六）年に小須戸町教育委員会が調査を行い、三基の塚の存在が確認された。昔は二三基あり、明治二十六（一八九三）年ごろまでは九基あったという。

確認された三基の塚のうち一号塚は、町道改良工事などで破壊されるため発掘調査された。塚の一部は欠けていたが、東西六メートル、南北六・八メートルの方形で、高さは〇・七メートルであった。塚として盛られた土の下からは、小形の竪穴式建物跡が見つかった。建物の大きさは東西一・八五メートル、南北一・六メートルで、四隅には柱穴が残っていた。出土品に須恵器片と、釘類などの鉄製品、中世の銭貨三枚、青銅で鑄造された鉦鼓（打楽器の仏具）一点などがある。古代から中世の遺物があるが、鉦鼓の推定年代から一

は、平安時代の土師器・須恵器片と、釘類などの鉄製品、中世の銭貨三枚、青銅で鑄造された鉦鼓（打楽器の仏具）

一点などがある。古代から中世の遺物があるが、鉦鼓の推定年代から一



図47 2号塚の現況

号塚は十四世紀後半以降に築かれたと考えられる。

今も残る二基の塚は測量調査が行われ、二号塚（図四七）は一辺七メートルの方形で、高さ約一・四メートル。三号塚は一部が失われているが、長径四・三メートル、短径二・七メートルの楕円形^{だえん}で、高さ〇・八メートルである。二基とも築かれた時代は不明である。

この二基の塚から県道四一号线を挟んで東側に、直径約一九メートルの三沢塚^{さいざわづか}（円塚古墳）がある。未調査のため詳細は分からないが、かつては九つ塚に含まれていたと推定される。

九つ塚は何故に築かれたのだろうか。一号塚の下からは竪穴式建物跡が見つかっている。建物とはいえ、生活する住居には狭い。また、鉦鼓が出土していることから見て、宗教的な施設と考えることができる。このことから一号塚は、下の建物で行われた何らかの行事を記念するために築かれたと考えられている。だが、本当に当時の人がそのような目的で築いたのだろうか。塚には墓や祭壇もあるが、一方では何かのしるしとして築かれたものもある。九つ塚の場合は、一号塚も含めて何の目的で築かれたのかは正確には分かっていない。しかし、以前に一字一石経という経文が書かれた石が出土したらしいことも考えると、この地は神聖な場であったのではないだろうか。